

平成25年度 第5回大和市文化芸術振興審議会 会議要旨

1. 日 時 平成26年2月14日（金）午後2時30分～午後4時35分
2. 場 所 大和市役所 委員会室
3. 出席状況 委員8名（欠席2名）
事務局5名（文化スポーツ部長ほか4名）
4. 傍聴人 なし
5. 議 題
 - 1 開会
 - 2 文化芸術振興基本計画（第2期）について
 - 3 その他
6. 会議資料
○大和市文化芸術振興基本計画（第2期）案

【会議要旨】

- 1 開会
- 2 文化芸術振興基本計画（第2期）について
市から、「文化芸術振興基本計画（第2期）案」、「欠席委員の意見」について説明
「第1期計画の取り組みと成果について」
委 員：音楽家協会では、以前は、クラシック音楽中心の選曲をしていたが、最近では、お客様のニーズにより、一緒に口ずさめる親しみやすいものを多く選曲している。やまとコミュニティ音楽館の文章について「本格的な音楽を楽しめる」というよりは、「気軽にクラシック音楽を楽しめる」の表現の方がよいと感じる。
委 員：「本格的」と聞くと身構えてしまう。「気軽」の方が親しみを感じる。
委 員：クラシック音楽でなくても、専門家によるレベルの高い演奏を聞けることに変わりはないので、「質の高い音楽を気軽に楽しめる」としてはどうか。
会 長：「本格的な音楽を楽しめる」を「質の高い音楽を気軽に楽しめる」への変更についての検討をお願いしたい。

「施策目標1.市民の暮らしと文化芸術とのつながりを深めるについて」
委 員：具体的方策1－3の「日常的な場」、「楽しめる機会の充実」は抽象的な表現で読み手がイメージしにくいように感じる。具体的な例示をするなど読み手が理解できるようにすべきと考える。
事務局：「日常的な場」は、芸術文化ホールや各学習センター、コミュニティセンターなどであり、「楽しめる機会の充実」は、まちかど落語やインターネット美術館、アウトリーチ活動などである。
委 員：具体的方策1－4の「人材や資金の確保、情報の発信など、文化芸術団体が活動を続けていくうえでの課題を踏まえた適切な支援」について、「適切」は表現が曖昧で読み手によって受け取り方が異なると思う。

- 委員：１－３については、「日常的な場」、「楽しめる機会の充実」という表現は分かりづらい。
「身近な場所で日常的に文化芸術鑑賞ができる機会を提供します」に修正してはどうか。
１－４については、行政がどこまで支援をするのかの判断は困難と感じる。「人材や資金の確保」については、各団体が主体的に行うべきものと感じる。市の財政状況等を考慮しても行政が支援することは困難を感じる。「情報の発信などの支援」に留めてもよいのではないかな。
- 委員：１－５の「他の行政部門との連携」について、行政部門の連携は当たり前のことと感じる。企業や産業と連携し、資金やアイデアなどの協力をしてもらうためにも「他の関係機関との連携」としてはどうか。
- 会長：１－３、１－４、１－５については、委員の意見を踏まえての文章表現の検討をお願いしたい。

「施策目標３.すべての子どもが文化芸術に親しめる環境をつくるについて」

- 委員：３－１については、「本物」とあるが「偽物」はあるのか。文化芸術においてその判断は困難と考える。「質の高い」に修正した方がよいのではないかな。
- 会長：「本物」を「質の高い」へ文章表現の検討をお願いしたい。

「施策目標４.文化芸術の振興を牽引する担い手を育てるについて」

- 事務局：４－５のアーティスト登録制度と併せて市内で活動する指導者の教室情報の発信を加えてもよいのではないかな。との意見もあるがどうか。
- 委員：営利が関わってくる教室情報を行政がＰＲするのは困難なように感じる。
- 会長：現状のままでよいと考える。

「施策目標５.大和の文化芸術の魅力を内外にアピールするについて」

- 委員：５－２については、「国籍等」を「国際的」や「国際的視点を入れた」などのやさしい表現へ変更した方がよいのではないかな。これはどういった狙いがある表現なのか。
- 事務局：施策目標６にも関わってくるが、外国人向けの冊子には生活情報が中心で文化芸術活動についての情報はほとんど掲載されていない。文化祭一般公募展などの文化芸術イベント情報の発信をしたいと考えている。
- 会長：「国籍等」をやさしい表現への文章表現の検討をお願いしたい。

「施策目標６.多文化共生社会の実現を目指し、様々な文化に親しめる環境をつくるについて」

- 委員：６－２、６－３について、多文化共生と言ったときに、ダンスや食事など他国の独特の文化を紹介するだけでなく、文化祭一般公募展の写真や絵画などで一緒の場に作品が展示されるような機会を大事にした方がよいと感じている。イベントへの外国人市民の参加を積極的に促すなど、毎日の暮らしの中に共通項を見つけることが必要と考える。
- 委員：民間でもそうだが、多文化共生や異文化交流というと「食」に着目した取り組みが多い。行政が行うのであれば、もう一步踏み込んだものにするべきと考える。
- 会長：「ファッション」、「フード」、「フェスティバル」は「３Ｆ」と言われており、「異文化への入口」、「異文化交流のシンボル」として、重要なものと捉えられているが、外国人を「類」ではなく「個」としてどのように受け入れるかの考えや取り組みが表現されるとよいと感じる。

委員：「文化芸術事業などを通して、外国の文化や芸術と交流する機会をつくれます」といった表現にした方が良いのではないか。

委員：多文化共生は、普段の生活の中にある身近な文化で交流することが重要と感じる。

会長：6－2、6－3については、委員の意見を踏まえての文章表現への検討をお願いしたい。

「その他」

会長：固有名詞に「」をつけるように修正いただきたい。

4 その他

○次回の開催については、3月28日（金）10：00から大和市役所 第6会議室で開催する予定である。後日通知する。